

PROFILE

泰 羅 雅 登

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
認知神経生物学分野 教授



平成 22 年 5 月 1 日付けで、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学分野の教授に就任いたしました。教室名は変更になりましたが、私がお世話になった口腔生理学教室(当時、中村嘉男教授)に昭和 60 年(1985 年)以来、25 年ぶりに里帰りしたことになります。

さて、25 年ぶりに母校にもどり、その様変わりには驚いています。認知神経生物学分野は M&D タワー(医科歯科で一番新しい建物)の 7F にあります。お隣は旧薬理学教室なので、懐かしい方々がいらっしやう、昔の雰囲気が残っています。もちろん、入れ物はまっさらです。

私が在籍していた頃の口腔生理学教室は、咀嚼運動発現のための脳内回路の解明を目的に、自教室の大学院生、臨床教室の大学院生がたくさん集まり昼夜を問わず研究をおこなう活気あふれる研究室でした。私自身は大脳皮質の機能に興味があり、博士論文の研究は咀嚼運動に関わる皮質咀嚼野の機能について研究をネコで行いました。その後、人間に近い霊長類で研究をしたいと思い、医科歯科大学をはなれ、東京都神経科学総合研究所の酒田英夫先生のもとで研究をはじめ、その後、この 4 月まで、日本大学医学部で研究、教育をおこなってきました。

これまでの研究のテーマは「視覚認知」と「運動」です。最近では、サルを使ってナビゲーション、立体視に関する神経生理学的研究をおこなってきました。サルでの高次脳機能研究は日本のお家芸と言って良いくらい、世界でも高いレベルにあります。サルを使った研究は始めたいと思っても、いろいろな制約があって、簡単に始められるもの

ではありません。しかし、幸いなことに、日本には伝統のある研究室が多く、日本の研究レベルを支えています。我が研究室もその一つであると自負しています。もう一つの大きな研究の柱はヒトを対象とした機能的 MRI、機能的 NIRS 研究、認知心理学研究を行っていることです。ヒトを対象とした研究では、特にテーマを絞らず、ヒトの認知機能に関する研究ならすべてを対象としています。ヒトを対象とした認知研究は心理学のほうがかげに長い歴史をもっています。そのため、心理学出身の研究者が多数、私たちの研究に参加しています。また、読み聞かせが親子の絆づくりに果たす役割についての脳科学的研究や、高齢者や障害者の脳機能改善研究など、社会教育学的な観点からの脳研究も行っています。

さて、医科歯科大学にもどり、これまでの経験を生かした新たな研究を始めたいと考えています。5 月に着任して以来、臨床系の先生、大学院生とお話をする機会があり、幸い、脳研究に興味をもってくださっている方がたくさんいらっしやうことがわかりました。まずは、これらの方々との共同研究を立ち上げることを考えています。

着任して 2 か月になりますが、まだ独立した教授室がなく、研究機器の搬入もおわっていませんが、徐々に環境が整いつつあります。本格的な稼働までにはまだ少し時間がかかるかと思いますが、今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和 60 年 3 月 東京医科歯科大学大学院歯学研

究科博士課程修了
昭和 60 年 4 月 (財) 東京都神経科学総合研究所
流動研究員
昭和 62 年 4 月 日本大学医学部 (第一生理学)

平成 17 年 4 月 日本大学大学院総合科学研究科
教授
平成 22 年 5 月 東京医科歯科大学大学院医歯学
総合研究科 教授